



【文宏達校長先生に記念品贈呈(台湾 慈明高級中学にて)】

特集

夢を追い求めて

星城大学 名古屋丸の内キャンパス
～知と文化、そしてビジネスに囲まれて～

長年の功績を称えて

専門学校星城大学リハビリテーション学院
理学療法士として活躍する卒業生

学園アラカルト

星城懇話会 会員交流会開催 / 学園職員 台湾研修実施

夢を追い求めて

星城大学 名古屋丸の内キャンパス

～知と文化、そしてビジネスに囲まれて～

東西南北、どちらに足を踏み入れても知と文化の香り漂う丸の内。経営学を学び、社会に飛び立つ学生にとって、自分の足で歩きだす最適な環境を提供できるのが、名古屋丸の内キャンパスです。

大学キャンパスには、プロジェクターなどが利用できる、大小さまざまな教室が整い、今後のIoT、AI時代に活用される十分なICT環境も整備されており、大学院では高速インターネットを活用した遠隔授業をすでに開始しています。さらにキャンパス1階には、おしゃれなカフェもオープン予定です。

キャンパス周辺の環境も、まさに新文教地区と言っても良いほど魅力に溢れた街並みです。

キャンパスの東には、徳川幕府、尾張藩が開校した藩校である明倫堂[東海市出身の細井平洲師が初代督学(校長)]の跡地があり、現在は名古屋東照宮となっています。西の円頓寺商店街は、まちづくり再生の真っ只中。今さまに変化し発展する商売人の力強さを、その知恵を肌で感じることができます。南のビジネス街では、金融の要となる日銀を中心に、各種業界のトップ企業の社屋が建ち並び、街中を歩くビジネスパーソンの活気に圧倒されます。北には、緑の森に佇む県図書館、そして名古屋城。都会の喧騒を離れ、一時の休息を求め散歩をするには最適です。

キャンパス周辺にはお手軽なファストフード店を始め、レストランやコンビニが何軒も建ち並び、学業の合間に“楽食”を楽しめるキャンパスでもあります。



丸の内キャンパス版 オープンカレッジ開講



「NOSS(にほん・おどり・スポーツ・サイエンス)日本舞踊」

東海キャンパスで長年開講しているオープンカレッジを、名古屋丸の内キャンパスでも平成30年度から開講しています。

開講初年度は、包括連携協定を締結している日本舞踊の西川流と連携し、西川流別格師範、西川カーク氏を講師に、日本舞踊と英会話を融合させた「日本舞踊 in English」を語学系講座として、また、西川流家元補佐西川陽子氏を講師に、日本舞踊が持つ「和」の動きをもとに、スポーツ科学を取り入れた運動プログラム「NOSS(にほん・おどり・スポーツ・サイエンス)日本舞踊」を教養・趣味系講座として開講し、ともに人気を博しています。

また、開発以降進化を続け、将来の活躍に無限の可能性を秘めている話題性の高い「ドローン」に関する「はじめてのドローン講座」も開講しています。

今後も丸の内という地域性を意識した講座を鋭意開講していこうと考えています。



夢を追い求めて 長年の功績を称えて

星城大学 赤岡学長 瑞宝重光章を受章



星城大学の赤岡 功学長が、教育に関する功労を認められ、平成30年秋の叙勲で瑞宝重光章を受章されました。

赤岡学長は、京都大学で長く経営学の教鞭をとられ、同大副学長を務められた時期には、新キャンパスの設置に尽力され、みごと開設に漕ぎつけられました。その後、特に広島県から招聘され、広島県立の3つの大学の統合に取り組み、新たに開学した県立広島大学の初代学長に就任されました。

その後就任された我が星城大学でも、明確なビジョンの下、その手腕を遺憾なく発揮され今日に至ってみえますが、今回の受章は、これらの教育に関する功績が高く評価されたものです。

いつもきちんとした佇まいで、大学の運営には厳しい赤岡学長ですが、職員を前にした朝の訓話では、近所の子どもたちや猫たちの話、東海市や細井平洲師の話、新たに進出する丸の内キャンパス近くの円頓寺の話などを明るく、楽しく、ときには経営的な側面も織り交ぜながらお話しされています。そういうときの赤岡学長は、にこやかで親しみやすく、他学での輝かしい業績も、緻密な論理力に加え、暖かい人間味があつてこそと実感させられます。

少子化時代を迎え、大学を始め教育機関には舵取りの難しい時代になりつつありますが、叙勲された赤岡学長には、星城大学での更なるご活躍が期待されています。

【左:勲章、右:勲記】



星城大学 三田勝己客員教授 文部科学大臣賞を受賞



【受賞報告】

星城大学の三田勝己客員教授が、10月1日、「情報化促進貢献個人等表彰」で文部科学大臣賞を受賞されました。今回の文部科学大臣による表彰は、教育・科学技術・スポーツ・文化の分野における情報化の促進に関し、教育の情報化、情報分野の研究開発等において、顕著な貢献のあった個人等を賞するものです。

10月16日には、理事長・学長などへ研究成果や受賞式の様子のご報告がありました。三田先生の実証研究は、重度の知的障害・肢体不自由が重複し、特別支援学校に通うことが困難な重症心身障害児のために、障害児の居宅と特別支援学校をICTで接続し、訪問学級と学校の学級が一体となった遠隔授業や居宅から学級・学校行事に参加できる情報化特別支援教育システムを構築して、約10年間にわたり続けられてきました。

三田先生が研究を始められた10年前は、ICTは未だ発展途上であったことを考えると、先生の先見性と今回の受賞は、e-Universityを掲げる星城大学のまさに面目躍如といえるでしょう。

石田正城理事長 文部科学大臣表彰

11月6日、ホテルオークラ東京において、「私立中学校高等学校教育振興功労者表彰」が行われ、本学園石田正城理事長が文部科学大臣表彰を受けました。この表彰は、学校教育法が制定され、中学校、高等学校制度が創設され70周年になるのを記念して、私立の中学校・高等学校の教育に長く従事し、私立学校の教育の振興に特に功績のあった者を文部科学大臣が表彰し、その功に報いるとともに、私立の中学校及び高等学校教育の発展に資するものとして行われたものです。

石田理事長は、昭和51年に本学園理事長に就任し、以来一貫して、本学園の建学の精神を柱とした幼稚園から大学院までの総合教育体制を推進し、更に、平成17年には愛知県私学経営者協会会長に、19年には愛知県私学協会会長に、20年には日本私立中学高等学校連合会副会長に、28年には愛知県私学総連合会会長に就任するなど、私学の振興発展に大いに寄与したとして、今回表彰されたものです。表彰は、同日に行われた日本私立中学高等学校連合会創立70周年記念式の際に行われ、柴山昌彦文部科学大臣から表彰状が授与されました。

星城高等学校 石部生志教頭 知事表彰

11月8日、愛知県庁本庁舎6階正庁において、「愛知県私立学校教職員表彰」が行われ、星城高等学校石部生志教頭が、私立学校に多年勤務し、学校教育の発展・充実に関し特に功績顕著であるとして、知事から表彰状を授与されました。

医療、福祉、スポーツ、子ども、教育の分野など、活躍のフィールドが多岐にわたる、世の中から“ひっぱりだこ”の理学療法士。専門学校 星城大学リハビリテーション学院を卒業し、社会で活躍する卒業生を紹介します。

北川 秀朗さん

(2010年度 I部卒業)

五条川リハビリテーション病院 勤務



主に回復期病棟に入院している患者様を担当しています。また、臨床業務の他、回復期部門の代表者として、病棟スタッフとの連携窓口になり、臨床業務が効率的に行える環境づくりも行っています。

もともと体育教員になろうと大学に進学しましたが、就職を考える時期になり、友人からの紹介もあり、星城リハの現場見学会に参加したところ、現場が明るく印象が良かったので、自分も目指そうと考えました。

星城リハ時代の恩師からの3つの教え、「自己責任」、「ABC(当たり前のことをバカみたいにちゃんとやる)」、「思いを持つ」は、今でも自分の信念となっています。特に「思いを持つ」ことを大事にしています。まず自分がどうしたいのか、常に考えるようにしています。臨床では、自分の思いがあっても、他者の意見や環境などを踏まえて考えるよう、常に努力しています。

近い将来、もう一度学習するため、大学院への進学を考えています。学んだことを活かし、臨床・教育を行うことができれば嬉しいと思います。



菅野 佳奈恵さん

(2013年度 II部卒業)

豊川老人保健施設 ケアリゾートオリーブ 勤務



老人保健施設で通所デイケアと入所ショートステイ利用者のリハビリテーションを担当しています。

理学療法士を目指したきっかけは、大学卒業を控えて、自分のやりたいこと、興味のあることが何かと悩んでいたとき、大学の先生から、「人に関わること」、「医療関係」の仕事に理学療法士があると勧められたからです。

星城リハは、昼間働くことができる夜間部があったので入学しました。先生たちが個性的で面白かったことが印象に残っています。在学中は、仕事と学校を休まないよう、健康面にも気をつけて頑張りました。

理学療法士は、学ぶ分野が広く、奥深い仕事で、やりがいがあります。利用者の在宅復帰がより円滑に行えるよう、今後も勉強していきたいと考えています。

常に明るく前向きにをモットーにこれからも頑張ります。



角川 菜摘さん

(2014年度 I部卒業)

知多リハビリテーション病院 勤務

回復期リハビリテーション病棟と外来リハの仕事に携わっています。回復期リハビリテーション病棟では、脳卒中などの脳血管疾患や大腿骨頸部骨折などの整形外科疾患に対して、ADL能力(日常生活能力)向上による寝たきり防止と在宅復帰を目的としたリハビリテーションを、医師、看護師、作業療法士、言語聴覚士、医療ソーシャルワーカーなど多職種の方と連携して実施しています。

理学療法士を目指したきっかけは、星城高校ソフトボール部への入部が決まっていた中学3年生のとき、歩くことができないう状態から、無事ソフトボールができるようになり、その時の経験から、自分と同じように怪我で苦しんでいる人の支えになりたいと考えたからです。

星城リハは、大学へ進学するより1年早く現場での経験を積むことができ、また、他の専門学校より実習時間が多く、現場から多くのことが学べるので入学しました。

毎日のリハビリで少しずつ良くなっていく課程を患者様と一緒に共有できることが、やりがいです。

いつでも患者様に寄り添い、患者様の心と身体が元気になれるよう、リハビリテーションを提供していくことが私の信念です。



母校である専門学校星城大学リハビリテーション学院で、教員として学生の指導・教育に従事しています。

星城リハは、私の入学当時は新設校として扱われており不安もありましたが、教員の経歴やオープンキャンパスの雰囲気が良く、アクセスも良いためそれが入学の決め手となりました。

勉強はとにかく大変でした。しかし、その内容は面白く、苦痛に感じる事はありませんでした。様々な環境の実習先を経験させていただき、臨床の場に立つ心構えや姿勢を身につける事ができました。

患者様や利用者様に良い働きかけができたとき、やりがいを感じます。それは、実際に動きや痛みが改善した時、本人又は家族の方の表情などに現れます。



野田 将嗣さん

(2009年度 I部卒業)

専門学校星城大学リハビリテーション学院(教員) 勤務

同じ事柄でも、別の医療職や、まったく異なる業種の方との意見交換はとても面白く、新たな発見があります。そういった意見に対し、柔軟に耳を傾けることでより良いものが生まれると思います。

理学療法士として、と同時にひとりの人間としても、広い視野を持ち仕事に取り組むことが必要と考えています。

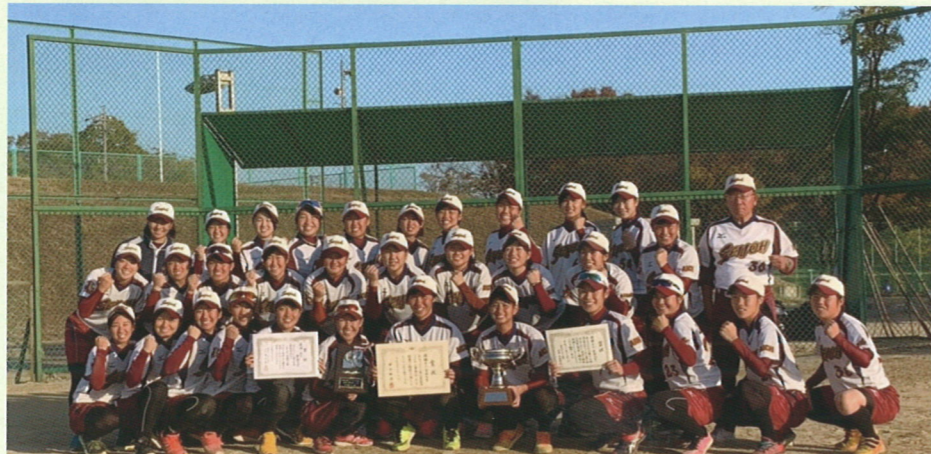
学園 アカルト

女子ソフトボール部 猛スピードで愛知県大学ソフトボール選手権初優勝 星城大学

創立は、現4年生6名という少ない人数で始まった女子ソフトボール部ですが、リーグ参加してすぐ二部優勝・一部昇格、参加2年目には全日本大学選手権大会「インカレ」に出場し、翌年にも連続出場しました。

この11月には、2年連続準優勝していた愛知県の大学ソフトボール選手権で、創部して4年、リーグ参加して3年という短期間での初優勝という快挙を成し遂げました。

決勝戦の中京大学とは苦しい戦い(8対6)となりましたが、チーム一丸で勝利を勝ち取り、また、最優秀選手に山宿稔梨投手が選出されるなど、チームとしても個人としても活躍を見せた大会になりました。



【全員集合】



【最優秀選手賞受賞】

第73回 国民体育大会に参加

星城高等学校

9月29日から10月9日までの11日間、福井県で第73回国民体育大会(福井しあわせ元気国体)が開催され、星城高等学校からは、少年の部に愛知県を代表して、少年男子レスリング競技(フリースタイルとグレコローマンスタイル)に5名、少年女子ソフトボール競技に3名、空手道競技に2名の計10名の選手が出場しました。



【白熱した戦い】

大会は折からの台風の影響を受け、予定を変更するなどして行われました。

星城高校の選手は、少年女子ソフトボールでは見事優勝を果たし、レスリングでも3名が入賞するなど大活躍し、「スポーツの星城」の名を全国に高めました。



【ソフトボール代表選手】

感謝祭 1年生プレゼンテーション発表

星城中学校



9月29日に「感謝祭」が行われました。星城中学校は福井県美浜町に、自然体験学習やスケッチ研修などこれまでお世話になってきました。その感謝の気持ちを形にすべく数年前から、生徒たちが美浜町への「街おこし」「恩返し」を考え、検討し、議論を重ねてきました。その中で「さつまいもバームクーヘン」を提案しました。美浜町の活性化につなげるというかなり具体的なプレゼンとなっていました。生徒たちで試作品を作ったり、商品化のための課題を研究したり、1年生とはいえ、かなり本格的に取り組んでいます。



発表の方法もそうですが、生徒たちの一生懸命さが伝わってきて、聞いているお客様たちも自然と笑顔になっていました。

【左上、右下: プレゼンテーション
左下:「さつまいもバームクーヘン」】



作品展

星の城幼稚園

11月16日、豊明市文化会館において、星の城幼稚園「作品展」を開催いたしました。

園児たちは、イメージしたものを描いたり、イメージを膨らませながら描いたり、形にする楽しさや、作り上げる満足感を味わいながら、作品展に取り組んできました。

学年のテーマは、年長が「おおきなかぶ」、年中が「遊園地」、年少が「アニマルタウン」です。園児たちは、友達と工夫しながら、立派な立体作品を作り上げました。



【アニマルタウン】



【遊園地】

「きらきら教室」のかわいい作品には思わず笑みがこぼれます。課外教室「アートスタジオ」の動く作品は工夫を凝らしたものでした。保護者の方々も、子ども達と一緒に作品について語り合いながら、楽しくご覧になってみえました。

ライフプランセミナーの開催

星城大学リハビリテーション学院



【素敵な人生プランとは】

10月12日、1年生を対象として「ライフプランセミナー」を開催しました。

外部から講師を招き、住まい・子育て・老後など、さまざまな切り口からどのような人生プランを描いていくのかをクラス全員で考えました。

「資格を取って何年働く?」、「生涯賃金はどれくらい?」、「家族構成は?」、「家は建てる? 建てない? どれくらいの費用?」、「子供にかかる学費はどれくらい?」、「ゆとりある老後を送るには?」など、一生を暮らしていく上で考えていかなければならない問題に対して、今から考え、目標を明確にしていくことで、計画的に日々の生活を送ることができます。

普段はあまり考えることのない問題に頭を悩ませながら、かつ楽しい雰囲気の中で将来を考える良いきっかけになりました。

【グループごとに話し合い】



学園職員 「台湾研修」を 実施しました

学園では、8月24日から27日にかけて、2班に分かれて、事務職員を中心とした研修を台湾で行い、約60名の職員が参加いたしました。

25日には海外提携校である台湾の慈明高級中学を訪問し、文宏達校長先生のご講演、学内視察、懇談会等を通じて、今後の学校運営などについて意見交換を行いました。



【石田理事長挨拶】

また、26日には同じく提携校で台湾の名門大学である東海大学を訪問しました。東海大学のシンボルのチャペルは、柱を1本も使わず、屋根そのものが建物を支える独特のデザインで、世界的にも有名な建物です。

今後も、海外提携校との交流を深め、建学の精神である「世界観の確立」をより強固なものにしてまいります。



【東海大学 チャペル前にて】



星城懇話会 会員交流会開催



12月4日、ホテル名古屋ガーデンパレスにおいて恒例の「星城懇話会 会員交流会」が開催されました。

今年のイベントは、「津軽三味線」!!

青森県で開催される津軽三味線全日本金木かなぎ大会で、2年連続Aクラス個人優勝を達成した神谷茂良さんを始め、神谷さんが主宰する「和胤」のメンバーをお迎えし、津軽三味線合奏曲「六段」、津軽じょんがら節、二重奏「田神」等が演奏されました。会員の方々は身近で 聞く津軽三味線の迫力を堪能し、盛んな拍手を送っていました。



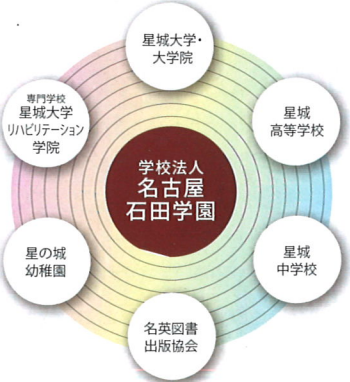
【迫力満点の津軽三味線】

津軽三味線演奏の後、交流会が行われました。会員相互交流の時間では、積極的に名刺交換されるなど、盛んに異業種交流が行われ、親睦の輪が広がりました。

今年も多くの方にご参加いただき、とても有意義な会となりました。



【浦野廣高会長挨拶・交流会は盛況でした】



学校法人
名古屋石田学園

〒460-0008
名古屋市中区栄1丁目14番32号
Tel: 052-221-8921
Fax: 052-689-6003
URL: <http://www.n-ishida.ac.jp/>